



3月25日(水)、今年度の第125期教育研究員と特別研究員の皆さんは、成果報告会を終え、半年間または1年間にわたる研究生活を修了しました。研究員の研究概要を紹介します。

《自立支援教室「きら星学級」》

**児童生徒が安心して活動できる支援の充実
～一人一人に寄り添い自己肯定感を高める支援の工夫を通して～
那覇市立安謝小学校 教諭 安里 高志**

不登校とは「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたもの」と生徒指導提要に定義されている。私がこれまで担任してきた学級でも何人かの登校渋りや不登校となった児童との関わりも経験した。登校に困難を感じる児童にはそれぞれの背景があったがどの児童にも「自分は登校できていない」「どうせ自分なんて」という思いから、自己肯定感の低下を感じた。一方で、その児童に個別に対応した時には、落ち着き明るい表情で活動できる状況もあった。今年度、きら星学級を担当する中でこれまで関わってきた児童のような自己肯定感の低さや個別支援時における表情を感じることができた。そこで本研究では、きら星学級での登校支援において学校との連携を深め支援方針を可視化して共有することで、一人一人に寄り添った支援を進める取り組みと、活動中でアサーション・トレーニングとリフレーミングの視点をとり入れた自己肯定感を高めるための手立てを講じる支援を行った。その結果、きら星学級支援において支援方針を可視化し、共通理解に基づいた支援の実施とアサーティブな考え方やリフレーミングを経験する活動を通して登校への安心感や自己肯定感の高まりにつながることができたと考える。

《教育相談 自立支援教室「あけもどろ学級」》

**自己を見つめ、よりよい自己決定ができる生徒の育成
～生徒の実態に即したSELと多様な体験活動を通して～
那覇市立若狭小学校 教諭 平山 育代**

今年度の自立支援教室「あけもどろ学級」には、10名の生徒が入級している。あけもどろ学級を担当し不登校生徒と関わる中で、自分のことを決めることができない生徒やコミュニケーションをとることが苦手な生徒など、自己肯定感が低いと感じた。その中でも「自己理解力」「自己決定力」に課題があると考える。また学校の様々な体験活動に参加することが難しいため様々な体験活動に不安を感じ戸惑い挑戦することができない。本研究では社会的自立に向けてSEL活動を取り入れ、自己を見つめ、自分で考え決める体験を多くすることで、生徒が安心して自己決定を行い、活動に参加することで個々の自己肯定感を高めていけるよう支援を行った。また、生徒の興味や特性に応じた体験活動や交流体験を通して、様々な経験を積むことや他者と関わる機会を設定した。その結果、生徒が自己を知り、他者と関わるのが楽しいと感じることができ、スモールステップで成功体験を積み重ねることで「自己理解力」「自己決定力」を育むことができ、自己肯定を高めることができたと思う。

《小学校 外国語》

**主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～目的意識をもたす言語活動の工夫を通して～
那覇市立城北小学校教諭 砂川 祥子**

児童の実態として、英語が将来役立つことは理解しているものの、学習を楽しんでいる児童は少ない。また、発表ややり取りでは自信をもてず、単語が思い出せず会話が途切れるなど、既習を活用した実践的なコミュニケーション力に課題が見られた。そこで本研究では、児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする力を育成するため、単元の終末に「誰かに伝えたい」と思える明確な目標を設定し、その達成に向けて学習に取り組む指導の工夫を行う。そして、実際のやり取りの中で習得した表現を目的に応じて選択・調整する学びの経験を重ねることで、「伝えたい」という思いをもって自分の考えを英語で表現し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指した。単元を通して単元のめあてを掲示し、学級全体で本時の目標を話し合い、個人でMy goalをたてる場面を設定することで、目的意識をもって課題を解決するために主体的に表現力を高めようとする姿が見られた。また、対話の場面では、相手の好みを先に確かめ、その反応に応じて伝える内容を切り替えたり、話題を広げたりしながら、相手を意識してやり取りする児童の姿が見られた。これにより、児童は英語による表現への自信と楽しさを実感し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が育まれたと考えられる。

《小学校 特別支援教育》

**自立活動におけるコミュニケーション能力の育成
～個に応じた表現活動の工夫を通して～
那覇市立高良小学校教諭 與那城 武一**

児童の実態として、他者へ思いや考えを伝えることに不安を抱く児童が多く、対面での意見交流では自信のなさや緊張から発言が消極的になる姿が見られた。一方で、令和7年度全国学力・学習状況調査児童質問調査で、ICTを活用した意見交流への質問に関しては、肯定的な児童の実態が明らかになった。そこで本研究では、自立活動の学習で、児童用タブレットを用いて考えを可視化し、質問のやり取りを繰り返す学習環境を整えることで、お互いに思いや考えを伝え合う他己紹介の学習に取り組んだ。また、MI特性に基づくペア・グループ編成を行い、互いの興味・関心を高めながら他己紹介の学習を進めた。その結果、他己紹介の学習で、児童は質問のやり取りを通して他者への関心や理解を深め、コミュニケーション能力が育成された。さらに、ICTを活用した学習環境は、発表や質問が苦手な児童の表現を支援し、学習の振り返りを可視化することで他者理解を深め、自己肯定感を高める効果をもたらした。以上のことから、ICTを活かした他己紹介の取り組みを通して、他者との主体的な関わりから、児童のコミュニケーション能力を育むことができたと思う。

《幼児教育》

**感じたことを意欲的に表現する子をめざして
～音やリズムを通した身体表現活動における環境構成と援助の工夫～
那覇市立上間こども園保育教諭 古堅 貴子**

本学級(年長児23名)の園児は、歌やリズム遊びを好む一方で、失敗への不安や恥づかしさから、表現することにためらいを示す姿や、活動に参加しても自分なりに動いて表現することに難しさを感じる姿が見られた。そこで本研究では、イメージが喚起されやすい音やリズムを手掛かりとし、園児が感じたことを意欲的に身体の動きで表現しようとする姿をめざして、環境構成と援助の工夫を行った。実践では、身近な生活音や自然の音に触れる活動から、オノマトペや音楽を手掛かりにイメージを膨らませ、動きを考える活動へと展開した。その中で、音やリズム、絵本など、感じたことを身体の動きへとつなげやすい物的環境を構成するとともに、安心して表現に取り組める人的・空間的環境を整え、園児が表現の仕方を自分で選択できるようにした。また、園児の素朴な表現を受け止め、多様な表現の良さやその過程を具体的に認める援助を行った。その結果、園児は友達の表現に触れて動きを工夫したり、自分なりに身体表現を試しながら繰り返し取り組んだりする姿が見られるようになった。音やリズムを手掛かりとした環境構成と受容的・共感的な援助を重ねたことにより、園児は安心して表現に向かい、感じたことを意欲的に身体で表現しようとする姿につながったと思う。

令和7年度 第125期教育研究員並びに特別研究員 成果報告会・修了式



上間こども園 古堅 貴子 研究員



城北小学校 砂川 祥子 研究員



高良小学校 與那城 武一 研究員



安謝小学校 安里 高志 特別研究員



若狭小学校 平山 育代 特別研究員



令和8年度 4月 教育研究所事業

- 2日(火) 初任者研修①・開講式
- 3日(水) 研究員入所式
- 4日(木) 初任者指導教諭等連絡会
- 7日(月) 初任者研修校長連絡会(オンデマンド)~18日
- 10日(木) 初任者研修②
- 11日(金) 研究員テーマ検討会
- 21日(月) 情報教育講座I
- 23日(水) 開講式・中堅教諭等資質向上研修①
- 24日(木) 教職2年目研修①
- 25日(金) 研究員項立て検討会
- 28日(月) NARAE ネット調整会議①

令和8年度 教育研究所『研修事業計画』の概要

令和8年度に向けて、教育研究所では、次のような研修を計画しています。

【教育課題に係る研修会】

☆講演会Ⅰ (オンライン研修)

日時：令和8年5月26日(火)
15:15~16:45 (入室~15:00~)
形態：オンライン・オンデマンド併用
対象：那覇市立小中学校全職員
講師：文部科学省学校DX戦略アドバイザー
大城 智紀 氏
演題：「(仮) AI を活用した授業デザインと教材研究」

☆講演会Ⅱ (参集及びオンデマンド研修)

日時：令和8年7月8日(水)
14:00~16:00
会場：那覇文化芸術劇場なは一小劇場
形態：(対面) 各学校代表4名(校長または教頭、教諭)
(オンデマンド視聴) その他の教職員
※講演会後にオンデマンド配信
対象：那覇市立小中学校全職員
講師：前 さいたま市教育長 細田 真由美 氏
演題：「(仮) グローバル教育の推進について」

令和7年度 研究員研究成果報告書

今年度は教育研究員7名、特別研究員2名
合計9名の研究員が修了いたしました。
各研究員の研究成果報告書を右のQRコード
からご覧ください。



【法定研修】

- ・初任者研修 (校内120時間程度、校外13回)
- ・中堅教諭研修 (校内15日程度、校外10回)

【経年研修】

- ・教職2年目研修 (校内15時間程度、校外3回)
- ・教職3年目研修 (校内5時間程度、校外2回)
- ・教職5年経験者研修 (校内研究授業2回、校外2回)

【その他の研修】

- ・初任者研修連絡協議会 (3回)
- ・初任者研修連絡会【校長向け】、次年度初任者研修に係る説明会 (オンデマンド各1回)
- ・特別活動主任研修会、研究主任研修会、臨時的任用教員研修会 (各1回)
- ・ICT情報教育推進部会 (7回)
- ・情報教育研修 (5回)

【講座】

- ・教育法規講座Ⅰ「教育法規理論」
- ・教育法規講座Ⅱ「教育論文の書き方(演習)」
- ・Google for Education「ICT活用による授業づくり」
※中堅教諭等資質向上研修にて実施予定
- ・情報教育講座Ⅰ「学校ポータルサイト運用」※R7他地区より異動対象者向け
- ・情報教育講座Ⅱ「ICT活用による授業づくり」
- ・夏期実践講座『ブラッシュアップ講座』(13回)

本年度をもちまして所長の任を終えるとともに、本号をもって所報の発行を終了いたします。これまで多くの先生方から温かい励ましをいただき、執筆の大きな支えとなりました。心より感謝申し上げます。次年度も本研究所の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

棚原 歩